

RSウイルスワクチン

定期接種が始まります！

妊娠中のワクチン接種で
赤ちゃんを守ろう！

妊娠中にRSウイルスワクチンを接種すると

ワクチン接種により母体が獲得した免疫を、胎盤を通じて胎児も受け取り、出生後、新生児及び乳児期におけるRSウイルス感染症の重症化予防が期待できます。

対象者

接種日時点で川崎市に住民登録をしている、
妊娠28週0日～36週6日の方

接種費

無料(全額公費負担)

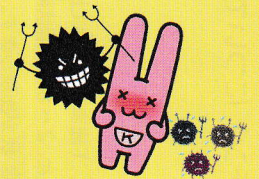
接種できる医療機関
など詳しくは市HPへ



RSウイルスワクチンQ&A

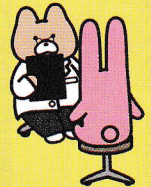
Q RSウイルス感染症ってどんな病気？

A RSウイルスの感染による急性の呼吸器感染症で、乳幼児に多く、主に接触感染や飛沫感染(感染者の咳くしゃみの飛沫を浴びる、ウイルスが付着したおもちゃを触る、なめる等)により感染します。多くは軽症で回復しますが、特に生後6ヶ月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。



Q 妊婦がワクチンを接種していいの？

A ワクチンの有効性、安全性は認められていますが、「RSウイルス感染症の定期接種(母子免疫ワクチン)についての説明書」を読み、ワクチンの有効性、副反応等について理解した上で接種をご検討ください。また、接種に当たっては、予め、妊婦健診を担当されている主治医の先生にご相談ください。



Q 里帰り出産します。その病院で接種できる？

A 接種を希望する病院が川崎市外の場合、事前に「予防接種依頼書」の申請が必要です。また、接種費は一旦、全額自己負担となり、接種後、償還手続きが可能となります。なお、接種を希望する病院がRSウイルスワクチンを扱っているか事前に病院に確認をお願いします。



予防接種依頼書、償還
詳しくは市HPへ



お問合せ先

川崎市予防接種コールセンター TEL 044-200-0142
FAX 044-200-1065